

教育研究全国集会

自分で問いを発見して 学び合う力

8/16
~
8/18

教育研究全国集会（教育のつどい）の「国民のための大学づくり」分科会に参加しました。いくつかの報告を受け、意見交換しました。

市民にはもっとわかりやすく提起しないと、市民と一緒に運動し現状を打開する流れにはなりにくいだろう。

このような意見交換とともに、二十年ほど前にこの分科会で、県立大学に保育士養成課程をつくる決意を表明した女性から、「その後長年にわたり署名等で市民の支持を広げ、議会・県・大学等に働きかけ続け、ついに今年、高知大に保育士養成課程をつくることができました」という報告がありました。この報告を受けて、これは我々の求める学力であり、このように熱意をもってねばり強く市民にわかりやすい運動をすることが大事ですね、と確認し合いました。

知識は「生きる力」になり、知識の有無で考え方が真逆にもなる大切なものだが、全国学力テストやセンター試験は、知識を詰め込みテストでそれをあてはめていくような「学力」を求めている。

教師としては、答えを与えるのではなく、生徒たちが自分で問いを発見し学び合うことを大切にしたい。しかしそれは皆ができることではない。大学教員にはもっと小中高に関わってほしい。

大学人も多忙で、政府の不当な政策に対抗すべく頑張っているが、

(小野寺)

8/9 戦争法案ヤバいっしょ！学生デモパレードin宮城 若者の自発的な行動がすばらしい！！

「いよいよ、宮城の若者が行動を起こした。果たして何人くらい集まるのだろうか。私みたいな昔の若者が参加してもいいのだろうか。でも、萩本欽一さんも学生だぞ・・・。場違いだったらすっと帰ればいいや」といろいろと考え、どきどきしながら会場へ向かいました。

すると、いました、いました。たくさんの方々や若者が。東北大学の学生もスピーチをしており、「うちの大学にもすばらしい若者がたくさんいるんだ」と失礼なことも思ったりしました。

「戦争法案ヤバいっしょ！」「なんか自民党感じ悪いよね」「東北だって黙ってないさ」と、いつもの調子と違いうコールに、初めは蚊の鳴くような声でついていきましたが、解散地点近くでは、いつものように大きな声を張り上げていました。

誰に言われたのでもなく、自発的に声を上げていた若者達に、脅迫状を送ったり、ネット上で批判をしたり、批判をしないまでもわれ関せずの態度をとったりする若者や大人たちが少なくなるように、私たちは平和や暮らしを守る運動をもっと強めていきたいと思えます。

(編 高)

ちょこっとシネマ

山本慈昭

望郷の鐘

満蒙開拓団の落日

この映画は、中国残留孤児の日本帰国救済運動に生涯奔走し、行方不明の開拓団員の名簿を作り残留孤児の帰国援助などに尽力した山本慈昭氏についての物語です。

山本氏は、長野県のお寺の住職で国民学校先生でした。昭和20年5月に満州に渡り終戦後シベリア抑留を経て奇跡的に帰国できた方です。

「国策を見破ることには容易ではない」の字幕が大きくスクリーンに映し出されて始まりました。終戦のわずか3か月前に開拓団が渡り満していたのはかなりの衝撃です。開拓民は国の詐欺にあったようなものという場面がありますが、もっともだと考えさせられます。

残留孤児の肉親捜しは、今は、至極当然のように考えられていると思いますが、初めは、山本氏が厚生省、外務省、法務省などを回り国会議員全員に手紙を書いても良い返事が得られず、国の責任とは・・・と考えさせられました。仙台ではセントラルで2週間14回だけの上映でした。鑑賞の機会があったらお勧めします。

(編なか)

